

## 1. 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4070500667
法人名	医療法人 小倉蒲生病院
事業所名	グループホーム しあわせ
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉北区徳力6丁目1-25 (電話) 093-965-6170

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年11月6日	評価確定日	平成21年12月14日

【情報提供票より】(平成21年10月2日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成12年1月31日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	14 人	常勤	5人, 非常勤 9人, 常勤換算 6.2人

#### (2) 建物概要

建物構造	木造スレート葺2階建て 2階建ての1階～2階
------	---------------------------

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円.	その他の経費(月額)	(水光熱費)15,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,500円			

#### (4) 利用者の概要 (10月2日現在)

利用者人数	6名	男性	0名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	80歳	最高	91歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小倉蒲生病院 / 北九州総合病院 / あおきクリニック / かんざき歯科
---------	--------------------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人小倉蒲生病院が運営する「グループホームしあわせ」は、グループホームの先駆けとして平成12年に開設され、10年目を迎えている。母体医療法人の「認知症疾患医療センター」との連携により、認知症への専門的知識の深い職員による、日々の暮らしの支援が行われている。管理者をはじめ、経験豊富な看護師が多く勤務しており、医療的なケアが充実している。また定員8名のため、入居者一人ひとりとのコミュニケーションを大切にしながら、ゆっくりと対応することができる。食事は買物から始まり、一連の流れを入居者と一緒に行うことを大切にしており、入居者と職員は、寄りそいながら暖かい雰囲気の中で、安心して毎日過ごしている。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の課題であった思いや意向の把握について、センター方式の活用を試み、その成果を感じており、継続して検討する課題としている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員にヒアリングを行い管理者が作成している。自己評価の際に、日々のケアやサービス提供を振り返り、ケアとの関連づけができたと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は定期的に2ヶ月に1回開催している。入居者の利用状況・ホームでの生活状況や行事予定・感染症対策などをホームより報告している。町内会長や地域包括支援センターからは助言があり、活発な意見交換が行われている。これからは災害時など地域の協力支援を積極的にすすめていきたいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	外部機関の案内や意見箱の設置等を行っている。毎月の支払い時には、家族からの意見が聴けるように努め、内容によっては運営推進会議につなげている。介護サービス相談員の訪問が毎月あり、意見を表せる機会としている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会には加入していないが町内会長の協力があり、地域行事(文化祭・盆踊り)や保育園演奏会などに参加している。また、散歩の際には、文化センター・市民センターなどに立ち寄りなど交流を図っている。自治会加入は行っていないが、会長の配慮により、加入しなくても交流が図れるように支援していただいている。最近では、地域の方も散歩していると声をかけてくれ、少しずつ地域へ根づいてきたと考えている。

## 2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	法人理念のもとに、ホームとして「認知を持たれるご本人と御家族の支援を行うことを通じて地域への貢献を図る」を理念として掲げ、地域密着型サービスとしての独自の理念をつくりあげている。また、基本方針を「お年寄りのあるがまを受け入れ、個人とその方の個性を尊重する。お世話は、「安心」と「信頼」と「満足」をお届けできるよう努めることとする。」と定め、入居者本意の快適な暮らしの実現を目標にしている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念はホーム内に掲示しており、職員の名札にも「信頼・安心・満足」の文字を入れている。管理者・職員共に理念について日々話し合い、理念に基づいたケアやサービス提供ができるように取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	自治会には加入していないが町内会長の協力があり、地域行事(文化祭・盆踊り)や保育園演奏会などに参加している。また、散歩の際には、文化センター・市民センターなどに立ち寄りなど交流を図っている。自治会加入は、会長の配慮により負担になるのではと、加入しなくても交流が図れるように支援していただいている。最近では、地域の方も散歩していると声をかけてくれ、少しずつ地域へ根づいてきたと考えている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	外部評価については資料をもとに意識づけを行っている。昨年度の課題であった思いや意向の把握について、センター方式の活用を試み、その成果を感じており、継続して検討する課題としている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	会議は定期的に2ヶ月に1回開催している。入居者の利用状況・生活状況や行事予定・感染症対策などをホームより報告している。町内会長や地域包括支援センターからは助言があり、活発な意見交換が行われている。今後は、災害時など地域の協力支援を積極的に働きかけていきたいと考えている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

## グループホーム しあわせ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	北九州市が派遣する介護相談員を、毎月1回受け入れている。北九州市が後援する「森フォーラム」にも参加し、認知症の啓発活動にも取り組んでいる。近隣の地域交流センターには、ホームの案内パンフレットを置かせていただき、地域の方への見学などを受けるようにしている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員がその重要性を理解できるように、社会福祉協議会の研修や母体病院である医療法人での研修会への参加を促し、ホーム内での勉強会の開催なども行っている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	月に1回、支払い時に来訪していただき、その都度、生活状況や職員の紹介などを報告している。金銭管理は請求書と利用明細を渡し、わかりやすいように工夫している。状況により電話連絡も行っている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	外部機関の案内や意見箱の設置等を行っている。毎月の支払い時には、家族からの意見が聴けるように努め、内容によっては運営推進会議につなげている。介護サービス相談員の訪問が毎月あり、意見を表せる機会としている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	法人内での異動(管理者)が行われることもあるが、職員については現状として異動は行われていない。離職を未然に防ぐよう、相談等による解決を行ないながら、職員の定着を図っている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	法人採用の場合と事業所採用の場合があるが、性別や年齢は関係なく、高齢者が好きな方や料理が好きな方等を重視している。職員の中にカイロプラクティックの資格を持つなど、特技を持つ方もおり、レクリエーションで運動機能の向上として取り入れ、活躍してもらっている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

## グループホーム しあわせ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	研修に参加し、ミーティング等において伝達を行なっている。高齢者虐待防止や身体拘束について、研修参加や日々のケアの場面において、意識を高めるよう取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	母体病院で行われる研修や外部研修への参加を、積極的に行なっている。ホーム内でも毎月ミーティングが行われており勉強会を行っている。研修は計画的であり、新人研修なども母体病院で行われている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	小倉南区のグループホーム交流会・福岡県のグループホーム協議会などに加入し、各種交流会や勉強会に積極的に参加している。ホーム同士はお互いに情報交換ができる関係ができ始めており、これからも継続して交流を図り、ネットワークを広げていきたいと考えている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	まず見学に来ていただき面接を行っている。時間をかけて本人・家族と話し合い、納得後に入居していただいている。入居する際に、一緒に自宅訪問することは数回行っている。入居者と職員のなじみの関係に配慮し、職員が担当制で入居者に接するように取り組み始めたばかりである。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	料理や花の活け方、言葉の意味など、入居者の方々から教えていただくことは多々ある。調理の際に味付けだけでも参加してもらいながら、能力を活かせるように一緒に取り組むように心がけている。入居者の智恵や経験を職員が学び、共に支えあう暮らしを築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

## グループホーム しあわせ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人・家族や関係者より情報収集を行い、好きなことや趣味などを把握するようにしている。会話の中から入居者の意向や思いの理解に努め、ニーズに応じたケアを行っている。センター方式の活用を試行しており、継続して検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	前回評価以降、新しく入居される方より、センター方式の導入を始めている。今後も充実させていく意向があり、継続した取り組みに期待します。		本人の希望や家族の思いを、介護計画に反映させるためにも、アセスメントの充実が望まれる。一人ひとりのバックグラウンドアセスメントを根拠として、日々の暮らしの中での多面的な支援につなげて欲しい。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しやミーティング等において、個別のカンファレンスを行なっている。状態の変化がある場合は期間に関わらず、その都度プランを見直している。介護記録の中には、その時の情景や入居者の表情・動きなどが読み取りやすく記録されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の介助など希望により対応している。母体病院の専門職との連携により、要望に応じて多面的な助言を受けることが可能である。管理者をはじめ、経験豊かな看護師が多く勤務しており、手厚い医療が受けられることが大きな特徴である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診での対応となり、内科・整形・歯科などの他科受診にも対応している。		

## グループホーム しあわせ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化が進んだ場合は、住み替えがスムーズに行えるように支援している。2階居室には階段を利用する方法しかないため、入居時に本人や家族にはその旨を説明し、了承をいただいている。一時的な体調の変化などはリビング横の部屋を利用して、目が届くように配慮している。管理者をはじめ、職員も経験豊かな看護師が多いため、医療面でのケアは充分に行われている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	記録物の管理は鍵付きの部屋に収納しており、他者の目に触れないようにしている。排泄時の声かけ等、耳元でそっと促すように配慮している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	あるがままを受け入れる基本方針を実践し、自己決定を促しながら、一人ひとりにあった支援に努めている。昼夜逆転している方も睡眠パターンを把握して対応するようにしており、何事も本人のペースを大切にしている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	調理から後片づけまで、入居者と一緒に行くことを大切にしたいと考えている。買物に行く方・下ごしらえをする方など、できるところで自然にお手伝いをしてもらっている。調理は職員が当番制で行っており、家庭料理を提供できるように日々取り組んでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	週3回の入浴を予定している。その日の体調を確認し、気持ちよく入浴してもらえるように取り組んでいる。入浴は、ゆったりとくつろいでいただくように取り組んでいる。体調不良で入浴できない方は清拭などで対応している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

## グループホーム しあわせ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者より園芸や料理など、得意なことを職員が学ぶ機会が多い。調理に参加する方も多く、それぞれの力を発揮してもらっている。年1回開催の「森フォーラム」に参加した時には、山田緑地で森林浴も兼ねてとても楽しまれていた。入居前からの馴染みの新聞をそのまま継続して購読し、新聞に目を通すことが毎日の楽しみになっている方もいる。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	天気の良い日などは散歩に出かけている。体調などに合わせて2グループに分けて散策している。近所のマクドナルドにもコーヒーを飲みに出かけたりすると、とても嬉しそうな表情を見せてくれる。職員には、もう少し外に出る支援をしていきたいとの意向があった。食材の買物にも入居者が同行して、日常的に買い物を楽しんでいる。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関は施錠しておらず、開閉はチャイムの音で確認している。現在、入居者3名が自室の鍵を持たれており、自分の部屋に鍵をかけることもある。鍵の管理も自分で行っており、入居者のプライバシーに配慮した取り組みがある。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	定期的な消防訓練を行っている。緊急時の連絡網・マニュアル・避難経路などが整備されている。居室が2階にあり、階段を利用した避難であるため消防とは一度ベランダに避難させるようにとの助言ももらっている。地域へは町内会長を通じて協力依頼をお願いしている。訓練に地域の方の参加はまだ行われておらず、今後の課題としてとらえている。今後の取り組みに期待したい。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	母体病院の栄養士が作成している献立を参考に調理を行っている。食事量の記録・一定量以上の水分量の確保(お吸い物など含めて1500~2000ml)を目指している。身体能力に応じて、刻みやあら刻みなど食事形態を調整している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

## グループホーム しあわせ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	社員寮であった建物を改築している。行事の写真や地域の方から送っていただいた貼り絵などが飾られ、全体的に落ち着いた雰囲気となっている。七夕など季節を感じられる取り組みも行っており、入居者がゆったりとくつろげる空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	洋室と和室があり、入居者は自宅で利用していた箆笥や家具・仏壇などを持って来られ、思い思いの部屋づくりをしている。一人でゆっくり過ごす部屋や家族が来て一緒に過ごせるようにソファベッドを置くなど、それぞれの生活習慣に合わせた個性的な部屋づくりを行っている。居室は普通の家庭の普通の一部屋として、落ち着ける雰囲気が充分に感じられた。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			